



中学生体験学習事業の 保護者負担額は

高松 幸雄議員

令和5年度からは3万から4万円程度

教育部長

質問席



▲視察に行く東日本大震災遺構・伝承館

問 本市では、今春から市内6中学校3年生を対象に、従前の2泊3日の修学旅行に代えて、3泊4日で東日本大震災の被災地及び首都圏を視察する体験学習事業が始まるが、この事業の目的は。

答 近い将来、この地域で南海トラフ巨大地震の発生が予測されている。海抜ゼロメートル地帯にある本市において、市民一人ひとりが防災に対する認識を高めていく必

要があると考え、従来の中学校の修学旅行の内容を変更し、首都圏だけでなく東北地方の東日本大震災被災地等の視察も行い、被災者から当時や現在の状況を直接聞き取ること、子ども達に興味関心を高め、学習意欲を喚起することが目的。

問 主な視察地と実施方法は。

答 東北地方の主な視察地は、中尊寺金色堂及び気仙沼市東日本大震

災遺構・伝承館、石巻南浜津波復興祈念公園、日本三景の一つである松島で、気仙沼市では被災した高校が当時のまま残っており、直接見るほか、石巻市や松島町では震災当日に被災した地域や避難した道のり、人との関わり合いの大切さなど、語り部の話しを聞く。首都圏では従来の修学旅行と同様に、各学校で行程等を決定する。市内6中学校を3グループに分け、佐織中学校、佐織西中学校が5月30日から6月2日まで、永和中学校、立田中学校、八開中学校が6月13日から16日まで、佐屋中学校が6月20日から23日までの日程を予定し、各グループ200人規模で実施する。

問 市の負担額と保護者負担額は。

答 1日目の名古屋駅から東北地方の視察等を経て、3日目の東京駅まで

の旅費等が市の負担。3日目の東京駅から4日目の名古屋駅までの旅費のほか昼食代や学校から名古屋駅間のバス代等が保護者の負担。市が負担する費用は約6万2千円を見込んでいます。保護者負担額は、各中学校で首都圏で決める行程により差はあるが、令和5年度からは3万から4万円程度になる予定。